

研究施設(ハード)&取水・分水管管理

資料3

調査依頼内容	大項目	小項目	項目の狙い	▶ 検討会での委員意見の参照
(1) 現状調査： 高知県海洋深層水研究所の現状	①建物	施設・設備の状態、老朽化具合	建物の老朽化状態をできる限り把握し、建て替えや移転の緊急性などを把握	
	②取水・分水	取水・分水施設の状態、管理運営体制	取水管流量調査は完了しているが、取水分水施設全般の状態把握および、管理運営の現状を過去の取水トラブルなども含めて把握。	
(2) 個別調査： 富山県、静岡県、沖縄県+海外取水地との比較 =強み（先進的な部分） 弱み（課題）を分析	①施設	取水施設と研究施設の立地、建物構造	BCPの観点から、3県では取水施設と研究施設(オンサイト、オフサイト含む)の位置関係はどうか。 例：沖縄の久米島研究所は、取水施設から数メートル高い位置に立てている。  また、建物構造などでBCP対策で工夫を図っているか。 例：建物構造は静岡県が、1階をほぼ空洞（会議室や作業場のみで、計器類のある設備は2階以上）にし、津波に流されても被害を最小限に留める工夫をしているetc  上記の状況を細かく調査する。	【大塚委員長・竹中委員・廣瀬委員】 ・"研究データ等、知的財産に関するものはBCP対策を施した場所で保管して欲しい" "今後のことを考えると、現在の海岸沿いで研究を続けるのはリスクが高い" "人命第一で、施設新設の場合はBCP対策が不可欠" "企業からの投資を集めることも考えると、海岸線沿いに施設がある必要があるのか（企業に安心してもらうために、リスクのある海岸沿いは避けるべき）
	②取水・分水機能の状況	取水・分水施設の管理運営体制	基本的に3県とも、取水・分水は市町村、研究施設は県、という認識。 研究所と取水施設が離れている場合もあるため、他県の分水体制なども調査することで、研究所と取水施設の関係性も検討可能か。	【大塚委員長・石塚委員】 "取水分水は県市一体で考える必要性"、 "取水施設は今のものを壊して新しくすることは現実的ではない"…
		分水方法、料金	県の現在の分水管理体制を見直す可能性を考慮した項目。	
		取水量の構成（分水用、研究用、その他）	他県の分水における基本情報や、どれくらいの割合で水が利用されているか（オーバーフロー分の処理含め）情報収集。	
(3) 分析：検討： 本県の海洋深層水における研究機能のあり方と取水・分水機能	①研究施設のあり方	立地、建物構造・設備を検討	2-①の調査結果もふまえ、 立地＝「現在地」か「高台移転」か「室戸市外移転」も視野に入れるか 建物＝現在地の場合は建替カリノベーションか。 移転の場合は新設か、既存の施設利用か。 立地によってどういった構造が適切なのかを検討する。 上記を分析し、最適なプランを検討する。 （委託事業の途中段階では複数プランの提示を求める？）	
		建物の概算費用の検討	立地や建物構造のプランに応じて、概算費用を算出し、費用対効果の視点からも実現可能な検討を進める。	
	②取水分水施設の運営方法	県運営、市への運営委託、民間への指定管理などのパターンを検討	2-②の調査結果もふまえ、 研究施設の立地プランと照らし合わせながら、最適な運営パターンを検討する。 例：立地が「現在地」or「移転」で運営方法は異なってくる想定。	

研究体制(ソフト)

資料 3

調査依頼内容	大項目	小項目	項目の狙い	▶ 検討会での委員意見の参照
(1) .現状調査： 高知県海洋深層水研究所の現状	①研究機能	現在の研究内容、設備状況まとめ	現在継続している研究の進捗状況、設備の不足・老朽化具合などを把握。	
	②これまでの取組評価	過去の研究評価表の再評価まとめ	これまで行ってきた研究の中から、現在再度取り組むべき課題がないか等を再評価	【大塚委員長】 "過去の取組事例も、現在の視点でもう一度見直すことも重要"
(2) .個別調査： 富山県、静岡県、沖縄県+海外取水地との比較 =強み（先進的な部分） 弱み（課題） を分析	①研究機能の状況	これまでの代表的な研究内容	3県のこれまでの研究内容と、導入している研究機器や設備を調査し、現状の高知県の研究所と比較。 いずれの施設も高知県の研究所よりも後で設立されているため、進んでいる研究分野や機材などを把握する。	【石塚委員・竹内委員】 "海藻など天然品が枯渇している事例は多く、今後、これらの代替品を海洋深層水で養殖するという研究も必要" "室戸海洋深層水飲料の健康面での研究のエビデンスが積み上がってきており、この分野を成長させて行けばよい。" "海産物について深層水利用による付加価値、どれくらいの経済効果が見込めるかといった研究ができるとうい"
		分析評価機器、実験設備などの設備状況	比較を通じ、(1)－①も参照のうえ、高知県の研究において進んでいる分野も分析する。	
	②研究施設の運営について	研究体制	県職員だけの運営か、外部研究員の常駐があるかなどを調査。	
	研究参画機関の参画状況と参画方法	国立研究開発法人、大学、企業、または研究者個人での参画があるかを調査。参画がある場合、参画方法や、参画研究者の専門分野（化学、生物学、水産学等）も調査。	【石塚委員・竹内委員】 "大学等からクロスアポイントシステム制度で客員研究員を受け入れる方法もある" "一歩先に行く、県外企業も投資したくなるような研究を目指してほしい"	
	研究に関する資金の調達方法	分水料金、公的資金、クラウドファンディング、SIB、企業版ふるさと納税制度等、研究補助制度、減免措置の適用状況など、3県での資金調達方法を調査する。	【石塚委員】 "研究資金の調達方法として、期限切れマイルカードのポイント活用などは、企業のCSRや税金対策にもつながり、検討の余地あり"	
	①今後高知県で取り組むべき研究課題	オンサイトとオフサイトで、取り組むべき研究課題を分けて整理	(2)－①の調査結果もふまえ、オンサイトで、新たに取り組む or 継続して取り組む 研究課題を整理。 オンサイトでの研究課題を検討したうえで、オフサイトで取り組む領域も合わせて検討	
研究課題から必要となる設備などの検討	(2)－①の調査結果もふまえ、研究課題を考慮しながら新施設で導入する機器を概算費用も含め検討する。			
深層水研究所の運営体制の検討	(2)－②の調査結果もふまえ、職員数の検討、外部機関からの参画の検討。 オフサイト研究施設との連携方法なども、他県の事例から検討。			
分水料金、県予算以外での実効性のある研究資金調達方法の検討	(2)－①の調査結果もふまえ、他県の事例等から参考にできる調達方法を検討			